

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/なごみ、かなでユニット)

事業所番号	2793700069		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら千里丘		
所在地	大阪府摂津市千里丘6-6-35		
自己評価作成日	令和5年12月25日	評価結果市町村受理日	令和6年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.starts-care.jp/kirara_senrioka/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和6年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人の心を大切に、ふれあいを通じて笑顔、安らぎ、喜びを提供します」をホームの理念とし、いつもご利用者様の心に寄り添った介護を全職員が実践しております。
また、リビングや共用部は四季折々の飾りつけを利用者様と共に制作し、季節を感じていただいております。
コロナが第5類に移行したことで、少しずつではありますが、ご利用者様の外出の機会を増やしていけたら、と考えております。地域の行事も増えてきているので、積極的に参加できるよう取り組んでまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は2003年に設立され、全国に50か所以上のグループホームを初め、幅広い高齢者福祉事業や保育園を展開している。当事業所は2018年に開設され、すぐ近くに大きな公園や大型スーパーなどがあり、散歩や買い物の格好の場となっている。月1回は利用者と共に制作活動を行い、廊下両側の壁面には、季節の花をあしらった12か月のカレンダーや四季の飾りが端々まで掲示され、さながら「きらら美術館」のようである。昨秋の市主催の「介護の日」作品展に出品し、利用者と共に鑑賞した。3食ともユニット毎に調理する職員(朝食は夜勤者、昼食は早番、夕食は遅番)が献立し、食材を買い出して調理し、季節食・行事食や手作りおやつも楽しんでいる。介護度の比較的低い利用者も多く、「やりたい、行きたい、食べたい」などの要望をできるだけ支援したいと積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を全スタッフに周知徹底し、全員で同じ方向に向かって、ホームを作っていけるよう、努力しております。	企業理念「人の心を大切にし、ふれあいを通じて笑顔、安らぎ、喜びを提供します」を当事業所も共有して事務所に掲示し、法人の運営理念と共に毎朝礼時に唱和している。別途事業所の年間スローガンと方針を掲げて取り組んでいる。理念に沿って、利用者との直接の触れ合いを通じて笑顔のある生活となるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが第5類に移行したことで、まだ少しづつではありますが地域の行事が行われるようになってきたので、状況をみながらではありますが、積極的に参加していきたいと思っています。 8月には夏祭り、11月には介護の日イベントに参加することができました。	自治会に加入し、近くにある公民館の掲示板や近在の職員などから地域の情報を得ている。コロナ禍で地域行事への参加やボランティア受け入れを中止していたが、令和5年は、地域の夏祭りと市主催の介護の日イベントに利用者と共に参加できた。クリスマスには、近所の元職員がボランティアでフラダンスを披露してくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつ地域の行事も行われるようになってきているので、利用者様と一緒に参加し、きらの存在を再認識してもらいたいと考えております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ少人数での開催としておりますが、関係各所と連絡を取り、いただいたご意見を活かしてサービスの向上に努めています。	コロナ感染症の5類移行後に対面での会議を再開し、家族2名程・自治会役員・民生委員の参加を得ている。会議では、入居状況、活動・出来事、事故・ヒヤリハット、職員異動などをA4版1枚で簡潔に報告し、身体拘束廃止委員会報告などをその都度添付している。	今後は、行政関係者や民生委員の常時の参加を要請するとともに、婦人会役員や知見者などにも働き掛けて、参加者の充実を望む。また、意見・要望を得易いように、できるだけ詳しい報告書を作成し、収集した意見・要望と事業所の対策を記した議事録を全家族にも配付することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度、市の高齢介護課から相談員に来ていただき、利用者様のきららの生活を見ていただいています。その際にいただいたご意見を参考に、余暇活動などを行っています。	市の介護保険課とは、介護保険の更新や各種申請・相談、介護相談員の受け入れなどで常に関係している。市の介護事業者連絡会に所属し、メールで案内を受けて、その行事や研修(事業継続計画の策定など)に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努めています。	「身体拘束等適正化のための指針」を作成し、年2回の研修と2か月毎の委員会を実施している。研修ではグループディスカッションも行い、スピーチロックも含めて拘束の無いケアに努めている。以前玄関は日中開錠していたが、家族からの要望を検討して防犯上施錠し、ユニット間も安全上施錠している。居室内のセンサーは設置していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月1回、品質向上における自社研修があり、様々な内容について理解を深めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までに、契約までの流れを解りやすく、細かく説明させていただき、ご納得されたうえで契約をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関先に設置したり介護相談員の方をお迎えし、ご意見を頂いた際には早急に検討し反映できる体制を設けています。	家族からは面会時(予約制だが他の制限は無く自由)・物品持参時・電話などで意見を聞いている。ユニットリーダーまたは居室担当職員が毎月作成する利用者個々の「生活状況報告シート」(生活状況・健康状態・行事予定・お知らせ)と写真1・2枚を家族に送付し、意見をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議とユニット会議を実施。その他常に悩みや困りごとを聞きやすい雰囲気づくりをしております。	出勤者の多い日を選んで月1回17時から全体会議を開き、パート職員も時間外手当を受けて参加している。また毎月ユニット会議を開き、エリアマネジャーが週1回程訪れ、管理者が年2回人事考課面談を行い、職員の意見を聞いている。職員の意見を基に各種行事を企画・実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給及び賞与に関しては考課表をもちいてフィードバックするようにしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、毎月の研修を実施、個々には都度、個人の力量に合わせたケアの助言を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護事業者連絡会に所属し、その行事や行政で開催される研修に参加させていただき、交流する機会を設けていただいております。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントをしっかりと取り、入所当初はコミュニケーションの時間を多く取り、本人の気持ちを理解すべく日々関係づくりに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調の変化やご様子は、毎月のお手紙でお知らせし、また特に急ぎの重要事項に関しては随時電話にてご報告し、その他の事項は面会時に報告しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングの時間を設け、細かな変化にも早急に対応するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様から教わることも多々ありますので、常に接遇等も大事にしながらご利用者様と同じ目線で対応するよう心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からご家族様にホームでの生活や体調などをご報告しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症などの状況を見ながらではありますが、ご家族様はもとより親戚の方やご友人など特段制限を求めず時間も縛りなく気軽に訪問していただける環境づくりに努めています。(現状はご予約いただき、1回30分程度としております)	入居時の「基本情報シート」中の生活歴や本人・家族・年賀状などから、利用者の馴染みの関係を把握し職員間で共有している。事前に家族の了解を得て、親戚や友人などの訪問を受け入れている。馴染みの人との電話・手紙・年賀状の取り次ぎや、週刊誌購読・料理・裁縫などの継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様に極カリビングで過ごしていただき、スタッフが間に入りながら利用者様が孤立しないような環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームのご利用が終了した後も、お互いに電話連絡をし、必要に応じてご相談をお受けするようにしています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食べたい物ややりたいことなどの希望をお聞きし実現できることは可能な限り実行しております。	入居時の「基本情報シート」中の「趣味・好きなこと」「利用者・家族の要望」や、入居後に把握したタブレット中の「生活特記」、若い時の暮らしぶりの話などで、利用者の意向を把握し職員間で共有している。意向を表出しにくい人は、二者択一や試したことへの反応、家族などから把握している。希望に沿って季節飾りを作り、作品展に出品した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やなじみの環境を重視し、外出の機会を設けたり、好きなものをお聞きし献立に盛り込んでおります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的には起床時間や就寝時間などは特に制限を設けず、自由な時間に寝起きしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や日々の面会時等に頂いたご意見を反映しています。	介護記録・アセスメント・モニタリングなどを基に、面会時や電話で聞いた家族の意見、電話で聞いた主治医の意見も取り入れ、サービス担当者会議(本人・家族も随時参加)や、ユニット会議で随時カンファレンスし介護計画を作成している。計画は長期目標1年・短期目標半年とし、半年毎にモニタリングし見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をどのスタッフが見てもわかりやすく見れるように、また申し送りノートを活用し、スタッフ間の情報共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の趣向に合わせて、家事支援の援助をしたり、散歩や室内の飾りつけをしていただいています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園を利用し散歩をしたり、行事に参加させていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	内科は毎月2回往診。急な体調変化はホームからの連絡を24時間オンコール対応していただいています。	入居時の話し合いで、全員が協力内科医と歯科医(歯科衛生士同行・衛生管理体制加算有)の訪問診療を受けており、何れも居宅療養管理指導がある。2名が精神科医による月1回の訪問診療を受けている。他の専門科は主治医の指示で家族対応とするが、柔軟に対応(付き添い料有)している。電話以外に、月1回の生活状況報告で症状や薬の変更などを家族に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問にて対応。体調変化についてはホームからの連絡を24時間オンコール対応していただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中や日々の訪問にて病院の連携室の方とコミュニケーションを図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に重度化した時のホームとしての指針を示し、重度化した際は早めの段階で本人やご家族様と話し合い十分な説明をし医療機関関係者とチームで支援できるように取り組みます。	入居時の説明と同意を得て、利用者の状態変化に応じて主治医の判断で看取り体制を取り、十分な話し合いの下に介護計画(看取り介護加算有)を作成し、終末期対応に当たっている。独りで亡くなることにはせず、できる限り誰かが傍に居て、好きなものを口にするなどを心掛け、従前と変わらぬ自然体でのケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生マニュアルに従い訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回以上の訓練を実施・予定しています。(総合・夜間・水害)	5月に水害想定で利用者参加15名、9月に火災想定で利用者参加2名による訓練を行い、1月に夜間想定訓練を計画している。食料3日分と、防災用具の一つとして1ユニット4つの簡易トイレを備え、台風接近時には浴槽に水をためている。夜勤専従者の訓練参加と備蓄食料品の増について検討を進め、また、BCP(事業計画)策定は最終段階にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのプライバシーを尊重する配慮や言葉かけ、対応を実施しています。	認知症の人を特別扱いせず、友人・知人や身の回りに居る人と差は無いとして対峙し、コミュニケーションを大事にすることが、その人の人格尊重に繋がるとして、日々の接遇時の言葉遣いに留意している。介助時の不適切動作についてもお互いに注意し合い、管理者・リーダーが気付いた点をミーティングなどで注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご希望をお聞きし、施設のペースではなく、利用者様の自己決定で生活できるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて、食事・入浴・散歩等の時間をご利用者様にあわせてサービスを実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や、寝ぐせ直し、髭剃り等個人に合わせて身だしなみを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる食事のメニューを取り入れ、買い物・準備・片付けなどを一緒にさせていただいています。 また、大きな行事の時などは弁当を取り寄せることもあります。	各ユニットで、朝食は夜勤者が、昼食は早出が、夕食は遅出が利用者の希望も入れながら自分流の献立で調理(前日に食材仕入れ)して提供している。総合的にバランスの取れた家庭料理が提供され、正月1日のお節と鍋物、2日のすき焼きなど季節行事食は全階同じものを楽しんでいる。夕食時に焼酎のお湯割りや、入浴後にノンアルコールを楽しむ人が居る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500カロリーを目安に食事を提供しています。水分も1500ccを目安にしコーヒー・紅茶・ココア・緑茶など豊富に取り揃え選んでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士が週に1回訪問し、個別にケアを指導していただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレを利用していただき、生活リハビリしていただけるよう、取り込んでおります。	定時の声掛け・トイレ誘導や排泄用品の交換以外に細かいサインを見逃さず、些かな失禁でもトイレでの排泄を試みることで、座位が保たれる限りトイレでの排泄に拘っている。尿・便ともにその量や色・匂いの異常に注意し体調管理に繋いでいる。尿量の観測で足のむくみを解消した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、摂津市の体操を行い、野菜・豆乳ジュースの摂取、また水分をしっかりと飲んでいただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いをせずにお声掛けをし、その日に入浴をご希望されないときは別の日に入浴していただくなど、臨機応変に対応しております。	週2回午後入浴を基本としている。安全第一に、バイタルチェック・全身チェックを怠らず、長湯好きやカラスの行水型と、習慣に合わせた入浴の見守りや介助に努めている。シャワー浴のみは3名程だが、看取り期に近い人も座位が保たれており、状態に注意してシャワー浴としている。一時的な入浴拒否でも、入浴後はいい笑顔でご機嫌の様子になり、職員へのご褒美になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に配慮し眠たくなれた時に寝ていただけるように対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前にはスタッフふたりでお名前を何月何日〇〇様〇錠〇包いきますとダブルチェックし、ご本人様と一緒にもう一度確認したのち服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日1回は必ず外気に触れるか洗濯もの干しや買い物・散歩・レクリエーションなどを実施していますが、ご本人様に合わせて無理強いをしない様に心がけております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるようなお散歩を心がけています。	コロナ感染症の5類移行後も、人混みを避けながら近い公園での季節の陽光と風を楽しむ機会を探す状態が続いている。玄関前のベンチでの日光浴を心掛け、裏庭での家庭菜園を工夫したいとしている。11月に市の「介護の日」イベントに出展した作品の鑑賞に利用者3～4名と出掛けた。全員での遠出は難しくなっているが、近い公園で弁当持参の花見を実現したいと春を待っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社として事故防止の観点から、ご本人様にお金を所持していただけないため、嗜好品など希望を伺い、職員が代理購入しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や文通などは特に制限なく自由にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は安全に利用できるように配慮しています。ソファは皆さんご自由に使用していただいております。	飾りつけがままならないがそれなりに落ち着いた雰囲気ユニット、季節感一杯の作品があふれているユニットと、ユニット夫々に、利用者の状態に応じて家具の配置や飾りつけに配慮した居間兼食堂である。各ユニット入口にある昭和の映画や広告宣伝のミニポスターの数々、1階廊下の月毎の季節の風景を折り紙の花や切り絵で表した大きな飾りつけは、「きらら美術館」と称したい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子などを配置し思い思いに過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族様にヒアリングし、なじみの家具等を配置していただいております。	利用者の状態により極めて簡素な居室もあるが、大半は既設のクローゼット・エアコンに、好みのカーテン(防災)・介護用ベッド・寝具類・ミニ筆筒・収納ケース・仏壇・テレビなどの持ち込みに加えて、趣味の品々や家族写真がその人らしさを思わせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレは自由に使用していただけるよう清潔保持に努めております。		